

南箕輪村むらづくり委員会（第11回）会議録

令和6年11月19日（火）

午後7時～午後8時40分

出席報告【出席者 計24名】	
むらづくり委員会 (19名)	山岡 勉 委員 長谷川 義隆 委員 加藤 直樹 委員 高木 武 委員 唐木 茂人 委員 酒井 きよみ 委員 清水 真知子 委員 伊久間 美昭 委員 伊澤 武善 委員 清水 克俊 委員 足立 芳夫 委員（会長） 小椋 信子 委員 平野 幸代 委員 千 菊夫 委員 入倉 眞佐子 委員（会長代理） 松田 聖一 委員 稲生 正徳 委員 吉川 つづり 委員 三澤 聡 委員
事務局（3名）	地域づくり推進課長 高橋 地域づくり推進課 企画係長 横道 地域づくり推進課 企画係 清水
オブザーバー（2名）	株式会社プロジェクトデザイン 亀井 株式会社プロジェクトデザイン 大槻
欠席者（9名）	北原 泰司 委員 田口 和弘 委員 菅家 美果 委員 唐澤 成江 委員 富岡 順子 委員 橋場 麻衣子 委員 宮坂 大樹 委員 原 和彦 委員 井口 千鶴 委員

1. 開会 事務局

2. 会長あいさつ 足立会長

伊那新校の説明会で多くの方が南箕輪村役場に訪れている中での委員会となる。急に寒くなっているが体調には十分気を付けていただきたい。

3. 協議事項

(1) 南箕輪村創生総合戦略の検証まとめ 事務局より説明

① 立地特性を活かした職住近接のむらづくり … A 判定

【意見】

(委員) No8 就労情報の判定は削除できないのか。

(会長) 村では運営していないが、削除はできない。

(事務局) 総合戦略として国へ提出しているもの。削除するには大がかりになってしまうためご理解いただきたい。次期計画では削除する。

② 若者定住と郷土愛の醸成による帰って来たいむらづくり … B 判定

【意見】

なし

③ 安心して子どもを産み育てることのできるむらづくり … B 判定

【意見】

(委員) No24 出会いイベント実施数だが、村で実施していないものでは判断できないのではないか。

(事務局) 上伊那の連絡会で合同実施しているため、それが件数として反映されている。

④ 誰もが安心して暮らし続けられるむらづくり … B 判定

【意見】

なし

(会長) この結果を答申に盛り込んでいく。また、答申案へご意見などをいただいたうえで答申を進めていく。

(2) 総合計画重点目標・基本目標案の取りまとめ作業① オブザーバーより説明

【委員からの意見・提案】

- ・ 「〇〇の村」といった表現があるが、どういう風に使われるのか。一つの言葉の中に様々な因果関係が含まれているが、それを読み込むのに時間がかかる。説明の要素として入れる内容で、もう少しスッと入れるような表現にしたらどうだろうか。

- ・ そもそも若い人はデジタル化を推進したいのだろうか。SNS とか自然に使っているが、若い人がアナログに回帰している印象もある。デジタル化の進行から逆にアナログへの回帰はあるのではないだろうか。移住者の感性、便利さを求めてというよりも自然環境などある程度の不便も許容して来ている。デジタル起点で若者が住み続けられる村、というわけではないと思う。

(事務局) 変わらない良さ、残すもの、違うキーワードで若者が夢や希望を持つ要素が入る可能性はある。

- ・ アンケート調査の中で、一番やって欲しいのは「福祉や高齢者支援、医療や防災体制が整った村」というのが村民の意見があるが、素案図には盛り込まれていない。「子育て」や「福祉」は柱として入れる要素ではないだろうか。地方創生の最大の目的は少子化対策、東京一極集中の是正であり、地方に移っても満足のいく生活が送れること。そのために村として何ができるだろうか、というのが総合計画ではないだろうか。

- ・ 視点のなかで「区費の負担が大きい。公民館自体を手放す」といったものがあるが、委員の皆さんはどう考えているのだろうか？多額の区費の支払いの中で、公民館の維持管理を行っている。公民館の必要性が見えてこないが、その意義などについて聞きたい。

(委員) 公民館は組長会や定例会、子どもの空手やスポーツの場、老人会の会合など。大勢が集まる場所は公民館しかない。公民館は必要であると思う。

(委員) 公民館は区民の会合やイベント会場、一部は区の人々が主体となったサークル活動の場。他の場所を借りるのは大変。あとは防災の避難所の拠点。前回、スポーツとかの活動で村民体育館が使えないといった声が挙がるが、もっとコミュニティ活動として区の施設を活用できるのではないか。コミュニティの意識が薄れているが、逆にコミュニティ意識を高めることでコミュニティを維持・管理していなければ自治体・自治会は成り立たないといった意識を増やしていくべきなのでは。

(委員) 決して公民館は不要とは思わないが、長野県内の公民館数は異常。2位の千葉県と比較しても2~3倍ほどの設置数となっている。他の都道府県は公民館がなくても様々な活動を行っている。公民館に頼らなくても問題は無いと考える。栄村の大地震のときも数か所避難所として使用できなかった公民館もあったと聞く。避難場所として、南箕輪村の公民館は使えるのか。

(委員) 村民は公民館があることが当たり前になっていると感じる。移住者からするとここに違和感を覚える人もいるのではないだろうか。移住者を迎えるのであれば、一考の余地はあると思う。

(委員) 移住者だが、他県に比べて区や組みへの意識は高いと思うが、特に違和感はなかった。

(委員) 区の会に集まるのが大変といった声もある。これは SNS ツールを活用して集まる回数を減らすといった工夫でなんとかなる。

(委員) 公民館が当たり前を集まれる場所という認識が心の拠り所にもなるのでは。子ども達の遊び場として思い出の場所にもなるし、防災の観点からも人が集まれる場所が必要。

(委員) 災害時など、「どこへ行けばよいのか」といった不安を抱える。そういった時に人が集まる場所として公民館の機能はあるはず。公民館の建て替えなどで費用を集めるときに様々な意見が出るが、そもそも集まる場所がなければ意見すら言えない。公民館は必要。

(委員) 義務教育の卒業祝いを公民館で行った時、参加した子ども達が「この村に帰って来たい」と言ってくれた。集まる場所があれば子どもから高齢者まで集まる。

(委員) 区の委員になると特に公民館の大切さを実感する。ただ「公民館は無くてもよい」といった意

見にも耳を傾ける必要はある。自分達の常識や慣習などがずれているかもしれない、それこそ多様性を受け入れることでもある。様々な意見を聞けるよう立ち止まることも大切だと考えている。

- ・ 資料の中に「若者が希望をもって住み続けられる村」や「地域の力を育む、つながりのある村」などあるが、これからどのように目標につながってくるのか。

(事務局) 次回以降の進め方にもなってくるが、抽象度を高くしたものを目標として、将来のイメージがわくものとしたい。

(3) その他

特になし

4. その他

今後の日程について 事務局より説明

第12回南箕輪村むらづくり委員会 12月3日(火) 19時～ 役場講堂

5. 閉会 事務局